

## (4) 竹島の領土権確立

### 【施策の目的】

竹島問題の平和的解決と竹島の領土権確立を目指し、政府と連携して国民への啓発による世論形成や国際社会への情報発信を行います。

### 【評価】

#### <前年度から評価実施年度上期までの成果と課題>

- ・国に対し、竹島問題に対する国民世論の啓発や国際社会への情報発信など6項目を要望している。
- ・国では、これまで、内閣官房に領土・主権対策企画調整室を設置（H25）、「竹島の日」式典に内閣府政務官の出席（H25）、小中高等学校の新学習指導要領に竹島を「我が国の固有の領土」と明示（H29～H30）、領土・主権展示館のリニューアル（R7）などを行った。
- ・一方で、竹島の領土権確立に向けた韓国との交渉の進展には至っていない。
- ・調査・研究活動の推進について、第5期竹島問題研究会が、令和7年3月に竹島問題に関する客観的な研究の成果として「最終報告書」を取りまとめた。
- ・国民世論の形成について、「竹島の日」記念式典、竹島問題を考える講座（公開講座）、出張竹島資料室、竹島資料室での啓発展示、Web竹島問題研究所などの広報・啓発等に取り組んでおり、県民の竹島問題への関心度（R6調査）は67.7%と、前年度に比べて4.8ポイント上昇した。

#### <第2期島根創生計画初年度から評価実施年度上期までの複数年度にわたる成果と課題>

※上記で重複しない成果・課題を記載

この欄は複数年度にわたる成果と課題を記載するため令和9年度から記載

### 【今後の方向性】

#### ①国への要望活動の実施

国際司法裁判所への単独提訴を含めた外交交渉の新たな展開、政府による研究機関や隠岐の島町への啓発施設の設置、「竹島の日」の閣議決定や政府主催による「竹島の日」式典の開催などへの積極的な取組を促すため、引き続き粘り強く要望活動を継続していく。

#### ②調査・研究活動の推進

竹島問題に関する客観的な研究、竹島学習の推進のための検討、研究成果のとりまとめと県内外への発信、竹島問題啓発資料の作成等を引き続き行う。

#### ③国民世論の形成

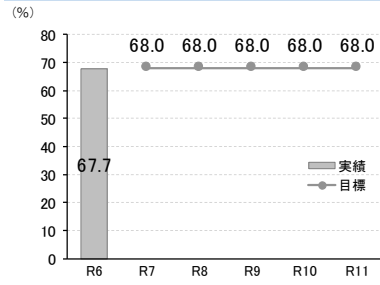
「竹島の日」記念式典や竹島問題を考える講座等の啓発に係る事業を継続するとともに、国や領土・主権展示館と連携を図り、県内外に対し効果的な啓発を行う。

竹島問題への関心を高めるため、SNSの活用や竹島資料室での学生解説員等による分かりやすい啓発活動を行っていく。

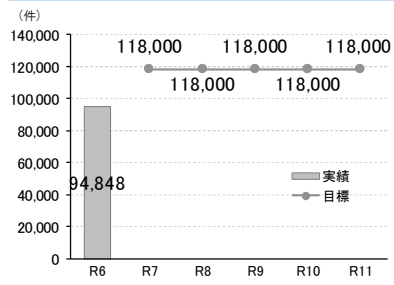
学校現場において、学習指導要領に示された内容の確実な実施を進めるとともに、独自に作成した教材等を活用しながら、「竹島に関する学習」の一層の充実を図る。

## 【施策の主なKPIの状況】

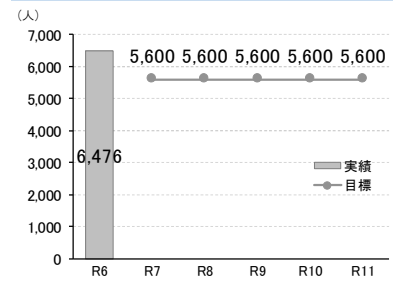
1) 県政世論調査で、竹島問題に「関心がある」とした回答の割合【当該年度8月時点】



2) Web竹島問題研究所ホームページへのアクセス数【当該年度4月～3月】



3) 竹島資料室の一般来室者数【当該年度4月～3月】



## 施策の主なK P I

施策の名称	VII-1-(4) 竹島の領土権確立
-------	--------------------

番号	K P I の名称	上段は目標値、下段は実績値					単位	計上分類	備考
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			
1	県政世論調査で、竹島問題に「関心がある」とした回答の割合【当該年度8月時点】	67.7	68.0	68.0	68.0	68.0	%	単年度値	
		68.0	68.0	68.0	68.0	68.0			
2	Web竹島問題研究所ホームページへのアクセス数【当該年度4月～3月】	94,848.0	118,000.0	118,000.0	118,000.0	118,000.0	件	単年度値	
		118,000.0	118,000.0	118,000.0	118,000.0	118,000.0			
3	竹島資料室の一般来室者数【当該年度4月～3月】	6,476.0	5,600.0	5,600.0	5,600.0	5,600.0	人	単年度値	
		5,600.0	5,600.0	5,600.0	5,600.0	5,600.0			
4									
5									

（第2期島根創生計画に掲げる施策の【取組の方向】）

①国への要望活動の実施

国際司法裁判所への単独提訴を含めた外交交渉の新たな展開、全国各地での啓発展示等の実施、政府による研究機関や隠岐の島町への啓発施設の設置、政府主催による「竹島の日」式典の開催や「竹島の日」の閣議決定などへの積極的な取組を促すため、様々な機会を捉えて関係省庁への要望活動を行います。

②調査・研究活動の推進

県内外の専門家による竹島問題の歴史、両国の主張の論点に関する資料の調査・研究を進め、竹島資料室やホームページなどを通じた情報発信を行います。

③国民世論の形成

「竹島の日」記念式典の開催による機運醸成、竹島資料室の有効活用などによる広報啓発、次の時代を担う子どもたちへの理解を深める竹島学習を進めます。

事務事業の一覧

施策の名称		VII-1-(4) 竹島の領土権確立				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	竹島領土権確立対策事業	① 国 ② 国民	① 政府から韓国はもとより、国際社会に対して、積極的に働きかけが行われる。 ② 国民世論の高まりにより国の取組を後押しする。	39,464	36,603	総務部総務課

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

総務部総務課

事務事業の名称		竹島領土権確立対策事業			
目的	誰(何)を対象として	① 国 ② 国民	事業費 (千円)	令和6年度の実績額	令和7年度の当初予算額
	どうい状態を目指すのか	① 政府から韓国はもとより、国際社会に対して、積極的に働きかけが行われる。 ② 国民世論の高まりにより国の取組を後押しする。		うち一般財源 (千円)	39,464
令和7年度の取組内容	・国への重点要望、地方巡回展の開催・竹島関連資料の多言語化など国と連携した啓発・情報発信等 ・竹島問題に関する調査研究、若手研究者の育成 ・竹島の日記念行事の実施、啓発パンフレット作成、竹島問題を考える講座(県内で3回開催)、県民・県職員向け出前講座の開催など広報啓発活動の実施 ・竹島資料室による情報収集・展示、出張竹島資料室(2市での出張展示)、竹島の日特別展示、夏休み展示など企画展示の開催				
令和6年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・竹島資料室での学生解説員の配置期間を拡大(R5年度:7月～翌年3月 → R6年度:6月～翌年3月)				
1	上位の施策	Ⅶ-1-(4) 竹島の領土権確立	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	単位	計上分類
1	県政世論調査で、竹島問題に「関心がある」とした回答の割合【当該年度8月時点】	目標値			68.0	68.0	68.0	68.0	68.0	%	単年度値
		実績値	62.9	67.7							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
2	Web竹島問題研究所ホームページへのアクセス数【当該年度4月～3月】	目標値			118,000.0	118,000.0	118,000.0	118,000.0	118,000.0	件	単年度値
		実績値	146,967.0	94,848.0							
		達成率	-	-	-	-	-	-	-		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○地方巡回展来場者数 R2年度:2,243人(4箇所)、R3年度:5,790(3箇所)、R4年度:3,528人(3箇所)、R5年度:9,170人(4箇所)、R6年度:6,246人(2箇所)									

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・内閣官房に「領土・主権対策企画調整室」を設置、「竹島の日」式典に内閣府政務官が初めて出席(H25.2) ・小・中学校及び高等学校の新学習指導要領公示。竹島を「我が国の固有の領土」と明記(H29.3、H30.3) ・内閣官房が東京に常設展示施設「領土・主権展示館」を開館(H30.1) ・「領土・主権展示館」が東京・虎ノ門に拡張移転(R2.1) ・「領土・主権展示館」の地方巡回展を実施(R2.10～) ・「領土・主権展示館」のリニューアル(R7.4)	
課題分析	① 課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点	・竹島問題を解決するためには、政府の外交交渉を後押しする国民世論の高まりが重要だが、世論調査結果などからは、現状は十分とは言えない。
	② 原因	上記①(課題)が発生している原因	・国民が竹島問題に触れる機会が不足している。
	③ 方向性	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・国民世論の啓発や国際社会への情報発信、竹島に関する国の研究機関の設置や若手研究者の育成、「竹島の日」の閣議決定や政府主催による「竹島の日」式典の開催、隠岐の島町への国の啓発施設の設置など、粘り強く国への要望活動を継続する。 ・「領土・主権展示館」や地方巡回展における展示内容の充実など、国と連携して効果的な啓発を図る。 ・竹島資料室への来室者数の増加、来室者の満足度が上がるような工夫を行っていく。

